

# 日本の絵画の50年

2013年4月20日（土）～6月16日（日）

## 出品目録

\* 出品している作品について、ほぼ展示順に作家名（生年、生地、歿年、歿地）、出品番号、作品名、制作年、技法材質、サイズ（cm）、所蔵を記載しています。

\* ☆印は個人蔵、註記のない作品は当館の所蔵です。

\* 55作家の66作品を展示してありますが、都合により出品作品を変更する場合があります。

### はじめに

当館の前身である和歌山県立美術館が、和歌山城内に開館したのが1963（昭和38）年でした。今年はそれから50年となります。開館初年度は5点であった所蔵作品は現在1万点を超え、和歌山ゆかりの作家を中心にしながら、国内外の重要な作品を含む充実したものとなっています。

この展覧会は、当館の収蔵作品から開館50年にちなんで、この50年間に日本で制作された絵画作品を選び、その歩みをふり返って見るものです。

1950年代に生まれたアンフォルメルなどの抽象的な絵画の制作が続けられる一方、1960年代に入ると「反芸術」と呼ばれた、芸術それ自体を否定するような動向が起きます。また1962年にはニューヨークでの「ニュー・リアリスツ展」をきっかけに、ポップ・アートが盛んになります。次々と新しい動向があらわれる中で、それぞれの画家たちは新しい表現の模索を続けることとなります。

宇佐美 圭司（USAMI Keiji／1940大阪府—2012福井県）

1 還元 No.6 1963（昭和38） 油彩、キャンバス 135.0×184.8cm

菅井 汲（SUGAI Kumi／1919兵庫県—1996兵庫県）

2 雷神 1958（昭和33） 油彩、キャンバス 162.6×130.7cm

今井 俊満（IMAI Toshimitsu／1928京都府—2002東京都）

3 蝕 1962（昭和37） 油彩、キャンバス 130.8×191.5cm

杉全 直（SUGIMATA Tadashi／1914東京都—1994東京都）

4 きっこう 1962（昭和37） 油彩、キャンバス 161.4×130.5cm

堂本 尚郎（DOMOTO Hisao／1928京都府—）

5 二元的なアンサンブル 1962（昭和37） 油彩、キャンバス 162.0×122.0cm

難波田 龍起 (NANBATA Tatsuoki/1905北海道—1997東京都)

6 緑の空間 1960 (昭和35) 油彩、キャンバス 91.4×117.2cm

浅野 弥衛 (ASANO Yae/1914三重県—1996三重県)

7 無題 1967 (昭和42) 油彩、キャンバス 72.5×90.8cm

関根 勢之助 (SEKINE Seinosuke/1929東京都—2003京都府)

8 落下する赤 1964 (昭和39) 油彩、キャンバス 162.1×130.3cm

津高 和一 (TSUTAKA Waichi/1911兵庫県—1995兵庫県)

9 アシタハキノウニナル 1964 (昭和39) 油彩、キャンバス 193.0×129.8cm

泉 茂 (IZUMI Shigeru/1922大阪府—1995大阪府)

10 Painting (DF1005) 1965 (昭和40) 油彩、キャンバス 161.5×130.5cm

宇佐美 圭司 (USAMI Keiji/1940大阪府—2012福井県)

11 路上の英雄 No.2 1966 (昭和41) 油彩、キャンバス 185.0×270.0cm ☆

12 水族館の中の水族館 No.2 1967 (昭和42) 油彩、キャンバス 185.2×276.0cm

近藤 竜男 (KONDO Tatsuo/1933東京都— )

13 67-24 1967 (昭和42)

アクリル絵具、キャンバス、ナイロン紐、木、プラスチック 194.0×130.0×9.5cm

荒川 修作 (ARAKAWA Shusaku/1936愛知県—2010アメリカ合衆国)

14 The Observer Continues 1965~66 (昭和40~41)

アクリル絵具、キャンバス 244.7×480.0cm

菅井 汲 (SUGAI Kumi/1919兵庫県—1996兵庫県)

15 Soleil Vert [緑の太陽] 1968 (昭和43) 油彩、キャンバス 244.8×330.0cm  
(エントランスホールに展示)

岡本 信治郎 (OKAMOTO Shinjiro/1933東京都— )

16 脱衣のイメージ着衣のイメージ 1963 (昭和38) 油彩、キャンバス 162.3×130.7cm

小野木 学 (ONOGI Gaku/1924東京都—1976東京都)

17 風景 F 1970 (昭和45) 油彩、キャンバス 129.8×130.4cm

## パンリアル美術協会と具体美術協会

京都絵画専門学校(現在の京都市立芸術大学)で日本画を学んだ三上誠、大野倣嵩、下村良之介らが日本画の革新を目ざして1948(昭和23)年に結成したのが**パンリアル美術協会**でした。一方、戦前から活躍していた吉原治良の元に集まった若い芸術家たちが1954(昭和29)年に結成したのが**具体美術協会**です。上前智祐、元永定正、田中敦子、白髪一雄らはそのメンバーでした。物質と精神をいづれにも従属させず対立させたまま表現を成り立たせるというスローガンを掲げ、初期には身体による行為を盛んに試みまし

が、1960年代以降は絵画が制作の中心となりました。いずれにおいても伝統的な絵画とは異質な物質を素材として取り入れている点が注目されます。

大野 俣嵩 (ONO Hidetaka/1922京都府—2002京都府)

18 作品 1961 (昭和36) 麻布、顔料、綿布 151.3×169.5cm

野村 耕 (NOMURA Ko/1927京都府—1991京都府)

19 迷 1964 (昭和39) 紙型、顔料、板 121.4×91.0cm

三上 誠 (MIKAMI Makoto/1919大阪府—1972福井県)

20 経絡 暦 1968 (昭和43) 頃 顔料、紙、板 170.7×121.0cm

下村 良之介 (SHIMOMURA Ryonosuke/1923大阪府—1998京都府)

21 鳥のほこら 1965 (昭和40) 紙粘土、顔料、紙 182.5×170.0cm

上前 智祐 (UEMAE Chiyu/1920京都府— )

22 作品 1963 (昭和38) 油彩他、板 184.0×94.0cm

元永 定正 (MOTONAGA Sadamasa/1922三重県—2011兵庫県)

23 作品 1964 (昭和39) アクリル絵具、小石、キャンバス 281.0×181.2cm

田中 敦子 (TANAKA Atsuko/1932大阪府—2005奈良市)

24 '61 赤と黒 1961 (昭和36) ビニール絵具、キャンバス 175.0×129.5cm

白髪 一雄 (SHIRAGA Kazuo/1924兵庫県—2008兵庫県)

25 平治元年十二月二十六日 1966 (昭和41) 油彩、キャンバス 273.0×363.8cm

前川 強 (MAEKAWA Tsuyoshi/1936大阪府— )

26 作品 1963 (昭和38) 油彩、麻布、キャンバス 229.4×179.5cm

向井 修二 (MUKAI Shuji/1940兵庫県— )

27 作品 1965 (昭和40) 油彩、キャンバス 182.8×136.8cm

松谷 武判 (MATSUTANI Takesada/1937大阪府— )

28 WORK-63-9 1963 (昭和38) ビニール接着剤、油彩、水彩、キャンバス 187.0×192.0cm

## 1970年代以降

1960年代の半ばから、作品を思考の表現として成立させようとする傾向も強くなります。李禹煥は「もの派」と呼ばれるようになる動向を代表する作家として、絵画の物質としてのあり方を積極的に示すことを通して、世界との出会いを開くことを考えています。また、写真を描くことで逆に絵画の特性を示す表現が試みられるなど、従来の、描かれたものを見るのとは異なった絵画のあり方が構想されたと言われているでしょう。

元永 定正 (MOTONAGA Sadamasa/1922三重県—2011兵庫県)

29 無題 1972 (昭和47) アクリル絵具、キャンバス 130.5×162.5cm

関根 美夫 (SEKINE Yoshio/1922和歌山県—1989東京都)

30 作品# 3 9 5 - 3 9 6 1975 (昭和50) 油彩、キャンバス 162.5×261.2cm

上田 薫 (UEDA Kaoru/1928東京都一 )

31 スプーンのジャム B 1975 (昭和50) 油彩、キャンバス 181.9×227.3cm

鳴 剛 (SHIGI Go/1943東京都一 )

32 無題F 1982 (昭和57) アクリル絵具、キャンバス 181.8×227.4cm

加納 光於 (KANO Mitsuo/1933東京都一 )

33 《まなざし—疼く飛沫を辿れ》九月 1989 (平成元) 油彩、キャンバス 194.0×130.2cm

李禹煥 (LEE U-Fan/1936韓国一 )

34 点より 1980 (昭和55) 岩彩、キャンバス 193.9×258.8cm

榎倉 康二 (ENOKURA Koji/1942東京都—1995東京都)

35 FIGURE B-No.3 1983 (昭和58) アクリル絵具、綿布 172.0×353.3cm

高橋 秀 (TAKAHASHI Shu/1930広島県一 )

36 APOCALISSE 黙示録 1979~80 (昭和54~55)

アクリル絵具、キャンバス201.0×339.7cm

桑山 忠明 (KUWAYAMA Tadaaki/1932愛知県一 )

37 トライアングル 青/緑 1984~85 (昭和59~60) 油彩、紙、板 221.6×267.3×9.9cm

#### 1980年代から

1980年代に入ると、ニュー・ペインティングなど、かつての絵画的な絵画の表現に再び可能性を見いだそうとする試みが盛んとなります。絵画を描き続けていた作家が再び注目されるとともに、戦後生まれの世代が新たに絵画に取り組み始めますが、絵画、さらには芸術のあり方自体を絵画の問題として考えるという姿勢は通底しています。

彦坂 尚嘉 (HIKOSAKA Naoyoshi/1946東京都一 )

38 PWP41 (ジャングルラブ) 1981 (昭和56) アクリル絵具、木 230.0×171.6×16.5cm

堀 浩哉 (HORI Kosai/1947富山県一 )

39 ジャングルー3 1986 (昭和61) /1987 (昭和62) 加筆  
アクリル絵具、岩彩、オイルスティック、墨、キャンバス 259.4×182.5×7.0cm

山田 正亮 (YAMADA Masaaki/1930東京都—2010東京都)

40 Work E-265 1986—87 (昭和61—62) 油彩、キャンバス  
194.0×194.2×3.3cm

辰野 登恵子 (TATSUNO Toeko/1950長野県一 )

41 WORK 87-P-26 1987 (昭和62) 油彩、キャンバス 227.0×182.2×3.5cm

中村 一美 (NAKAMURA Kazumi/1956千葉県一 )

42 示差性の絵画—赤と銀 1987 (昭和62) アクリル絵具、キャンバス 194.5×162.5cm

中西 夏之 (NAKANISHI Natsuyuki/1935東京都一 )

43-45 L R—目のひびき—I・II・III 1988 (昭和63) 油彩、キャンバス 194.0×146.3cm

宇佐美 圭司 (USAMI Keiji/1940大阪府—2012福井県)

46 Wave Ring 1980 (昭和55) 油彩、キャンバス 194.8×270.0cm ☆

菊畑 茂久馬 (KIKUHATA Mokuma/1935長崎県— )

47-49 海宮 七・八・九 2000 (平成12) 油彩、キャンバス 103.0×72.0cm

野田 裕示 (NODA Hiroji/1952和歌山県— )

50 WORK 505 1988 (昭和63) アクリル絵具、キャンバス 262.3×183.2×7.0cm

51 WORK 796 1993 (平成5) アクリル絵具、キャンバス、麻布  
266.6×186.5cm (エントランスホールに展示)

木下 佳通代 (KINOSHITA Kazuyo/1939兵庫県—1994兵庫県)

52 LA '92-CA711 1992 (平成4) アクリル絵具、キャンバス 218.5×290.8×6.3cm

中西 學 (NAKANISHI Manabu/1959大阪府— )

53 THUNDER 1988 (昭和63) 発泡スチロール、アクリル樹脂、他 138.0×181.0×16.0cm

河崎 ひろみ (KAWASAKI Hiromi/1960和歌山県— )

54 あらゆるものと小さなひとつのために94-8

1994 (平成6) 油彩、キャンバス 194×162cm

小河 朋司 (OGAWA Tomoji/1966和歌山県—)

55 COLOR TINT -RAINBOW- 1994 (平成6) アクリル絵具、ミックスホワイト、木  
240.0×30.0×23.5cm (展示室入口前に展示)

## 1990年代以降

1990年代から最近になると、絵画の表現を問い直すことが表現の幅を広げる結果となり、問題意識自体が拡散しているようにも思えます。物質と行為の関わりを通して表現の探求が続けられる一方、見えるものを写すことを通して絵画のあり方や、ものを見るということ自体を問い直すような表現への取り組みが続けて行われていることも注目されます。☒

この展覧会で紹介できなかった作家や作品もありますが、それぞれの時代の表現と、その背景にある問題意識を読み取っていただければ幸いです。

大淵 純 (OBUCHI Jun/1960福岡県— )

56 G-110 1995 (平成7) ミクストメディア 220.0×386.0cm

北堅 吉彦 (KITANO Yoshihiko/1960大阪府— )

57 巢—tanpopoiro (蒲公英色) 1995 (平成7) 油彩、キャンバス  
365.0×115.0×8.9cm

泉 茂 (IZUMI Shigeru/1922大阪府—1995大阪府)

58 割れる三角 1983 (昭和58) 油彩、キャンバス 259.0×194.0cm ☆

吉原 英雄 (YOSHIHARA Hideo/1931広島県—2007大阪府)

59 二つの地平—残像・14 2005 (平成17) アクリル絵具、油彩、木炭、キャンバス  
270.0×180.0cm ☆

水田 寛 (MIZUTA Hiroshi/1982大阪府— )

60 南公園 I 2006 (平成18) 油彩、キャンバス 150.0×150.0cm

湯川 雅紀 (YUKAWA Masaki/1966和歌山県— )

61 福耳 2011 (平成23) 油彩、キャンバス 182×259×4.5cm

館 勝生 (TACHI Katsuo/1964三重県—2009大阪府)

62 September. 1. 2008 2008 (平成20) 油彩、キャンバス 130.3×194.0cm

坪田 政彦 (TSUBOTA Masahiko/1947兵庫県— )

63 描・描・点 2002 (平成14) 油彩、キャンバス 100.0×80.3cm

内海 聖史 (UCHIUMI Satoshi/1977茨城県— )

64 眼前の黒 2003 (平成15) 油彩、綿布 80.0×160.0cm

坂井 淑恵 (SAKAI Yoshie/1965千葉県— )

65 中の人 1995 (平成7) 油彩、キャンバス 162.1×162.1cm ☆

妻木 良三 (TSUMAKI Ryoza/1974和歌山県— )

66 境景 E-II 2011 (平成23) 鉛筆、ケント紙 101×72cm